

LPガスってどんなガス？



1

空気よりも
重いです

LPガスの重さは空気の約1.5倍。
漏れると、低いところや
ものかげにたまりやす。

2

液化した状態で、
容器に入っています

LPガスは貯蔵・運搬しやすいように、
圧力をかけて液化した状態で
容器に入っています。

3

安全のために
ニオイをつけています

LPガスそのものは無色無臭。
そのため、漏れたときにわかるように、
特有のニオイをつけてあります。



4

クリーンな
エネルギーです

二酸化炭素や有害な物質の
排出量が少ない
クリーンなエネルギーです。

5

燃焼には、たくさんの
空気が必要です

LPガスが完全に燃焼するためには、
たくさんの新鮮な空気(酸素)が
必要です。室内でガスを使
用するときは、十分に
換気をしてください。



6

災害時でも、
復旧が早いです

容器につめて、各ご家庭で使用する
LPガスは、メンテナンスが容易。
災害時でも早期に
復旧することができます。

こんなことに気をつけてください

LPガス用のガス機器を使用してください

- ガス機器に貼られているラベルを確認し、LPガス用の機器をご使用ください。
※都市ガス用機器は使用できません。
- ガス機器の取り扱い説明書をよく読んでから、ご使用ください。
- ガス機器の保証書は大切に保管してください。



点火・消火は必ず目で確認

- 火がついたか、消えたか、必ず目で確認してください。
- ガス機器の近くに燃えやすいものを置かないでください。
- ガスを使っているときは、その場を離れないでください。
- マッチなどで点火する機器は、点火後に器具栓を開いてください。



いつも青い炎で

- LPガスは、必ず青い炎でお使いください。



完全燃焼



酸素過多

▲音をたてて炎が浮いている



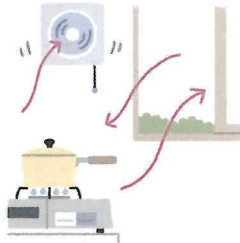
酸素不足

▲オレンジの炎

特約店・
販売店へ
連絡を!

ガスを使う＝換気する!

- 室内でガス機器を使用するときは、換気扇を回したり、ときどき窓を開けたりして、十分に換気をしてください。
- ガス暖房機器使用時は、必ず1時間に1～2回、換気をしてください。
- ガス機器はたくさんの空気を必要とするため、換気が十分に行われていないと不完全燃焼を起こし、危険な一酸化炭素(CO)を発生します。



! 一酸化炭素中毒に注意してください

一酸化炭素(CO)は無色無臭ですが、毒性が強い気体です。そのため、少量でも吸い込むと、中毒になる危険性があります。初期症状は頭痛、けん怠感、吐き気、めまい、手足のしびれ、判断力の低下があります。重度になるとけいれん、呼吸不全などの症状が現れ、最悪の場合死にいたることもあります。不完全燃焼を防ぐため、ガス機器使用時は必ず換気を行ってください。

ガス機器は定期的にお手入れ・点検を

【ガスコンロ】

バーナーの目づまりは、不完全燃焼の原因となります。器具ブラシなどで掃除をしてください。



※ゴトクは中性洗剤をつけたスポンジで洗ってください。

POINT

ネジを取り外す必要がある場合は、ご自身でお手入れせずに特約店・販売店へご連絡ください。

【ガス栓】

- ガス栓はいつも全開にして使用し、使わないときは完全に閉めてください。
- 外出するときや寝るときは、ガス栓を閉めてください。
- 配管やガス栓をアースの代わりにしないでください。



CHECK

ガス機器に接続していないガス栓は、絶対に開けないでください。不使用のガス栓には、ガス栓カバーとゴムキャップを装着してください。



コンロ購入時に付属している、ホース口保護のプラスチックキャップや保護キャップ、巻きつけられたビニールテープは取り外してください。

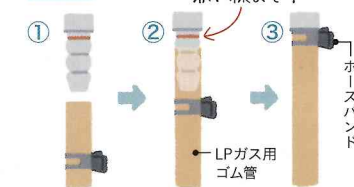


※ゴムキャップの代用にはなりません。

【ゴム管】

- ガス栓に合った、LPガス用ゴム管や専用ホースを使用してください。
- 過度に長いもの、ひび割れや焼け焦げのあるゴム管は使用しないでください。
- ガス機器の下に通したり、折り曲げたり、炎の触れる場所に設置したりしないでください。

CHECK



ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込んで、ホースバンドでしっかりとめてください。



三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。



ゴム管からのガス漏れの点検は、ホースに石鹸水を塗って調べます。泡が出た場合は、すぐに取り替えてください。

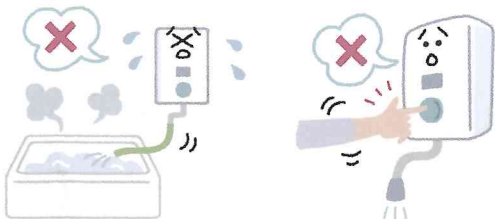
知っておきたい、ガスの大切なこと

小型湯沸器を使用するときは



使用中は必ず換気を行ってください。

排気のフィンがほこりや汚れで、目づまりしていないか確認してください。



長時間の連続使用は、不完全燃焼を起こす可能性があり危険です。お風呂やシャワーとして使用することは、絶対におやめください。

使用中に火が消えてしまった場合は、再点火を繰り返さないでください。不完全燃焼をしているおそれがあり、一酸化炭素中毒の原因となります。

ガスファンヒーターを使用するときは

- 使用中は、1時間に1~2回、必ず換気をしてください。
- 機器背面にあるエアフィルターについたほこりは、掃除機で吸い取るように掃除をしてください。



増改築をするときは

- 屋外に設置されたガス機器を、小屋などを作ることで困ってしまうことは大変危険です。
※新鮮な空気が不足し、不完全燃焼による中毒事故や、ガス機器の故障の原因となります。
- 増改築工事中、ガス機器・給排気設備をビニールシートで覆うことがあります。その間は、ガス機器を使用しないでください。
- 塗装工事で、排気口をふさいでしまわないよう注意してください。

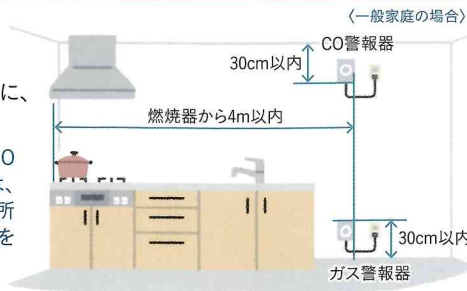


警報器は正しくセットされていますか？

CHECK 1

警報器は適切な位置に、設置されていますか？

LPガス用の警報器とCO（一酸化炭素）警報器は、右図のように正しい場所に設置されていることを確認してください。



CHECK 2

コンセントは抜けていませんか？

警報器の電気プラグは常時コンセントに差し込んでおきましょう。

CHECK 3

交換期限を確認してください！

警報器の交換期限は5年です。交換期限内のものか確認しましょう。

CHECK 4

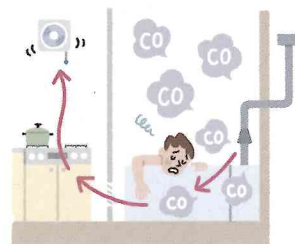
まわりにもものを置かないで！

警報器のまわりにもものを置いていると、感知しにくくなります。

自然排気式風呂がまをご使用の方へ

- 浴室に設置されている、自然排気式風呂がまで入浴するときは、

お風呂を沸かしているときやシャワーを使っているときに、台所などの換気扇を使用しないでください。風呂がまの排気が室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。



- 排気筒や給排気設備をときどき点検してください。



排気筒が破損したり、外れたりしていませんか？

排気筒内に、鳥が巣を作っていませんか？

給気口を荷物でふさいでいませんか？

排気ファンがついている機器は、使用時にファンが作動していますか？

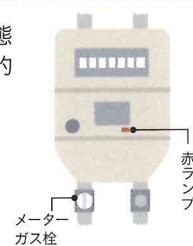
ご心配・ご不安がございましたら、特約店・販売店にご連絡ください。点検で異常があったガス機器は、ただちに交換してください。不完全燃焼防止機能がない機器や、老朽化したガス機器は交換をお願いします。

マイコンメーターが24時間見守ります

内蔵しているコンピューターが、ガスの使用状態をチェックしています。異常があるときは、自動的にガスを遮断します。

マイコンメーターのPOINT

- メーターのガス栓は、閉めないでください。
- 赤ランプが点滅していないか、定期的に確認してください。



マイコンメーターは、こんなときにガスを遮断します！

- 大きな地震（震度5相当以上）
- 大量のガス漏れ
- 機器の長時間使用

マイコンメーターがガスを遮断したときの復帰方法

周囲がガス臭くないことを確認してから、復帰操作を行います。もしガス臭い場合は、操作せずに特約店・販売店にご連絡ください。

- 1 ガス栓を閉める
ガス栓、器具栓をすべて閉める。
※メーターのガス栓は閉めないでください。
- 2 復帰ボタンを押す
マイコンメーターに「ガス止」と表示されていることを確認し、「復帰ボタン」を押す。液晶文字とランプが点滅したら1分間待つ。
※ガス漏れがないか、マイコンメーターが安全確認を行います。
※ランプが復帰ボタン部にあるものもあります。
- 3 文字とランプが消えたら完了
液晶の文字とランプが消えたら復帰完了。それでも使えないときは、復帰操作を繰り返さず特約店・販売店にご連絡ください。

小型容器の取り扱いについて

- 容器が倒れないよう、平らな場所に置いてください。
- 容器を横に寝かせて使用しないでください。
- 直射日光や火気を避けてご使用ください。
- 使用後は必ず容器バルブを閉めてください。
- 容器は火の気のない、風通しのよい屋外に保管してください。
- 不要になった容器は、必ず特約店・販売店に返却してください。

※LPガスが残っている容器をゴミとして捨てると、収集車や処理場でガス爆発などの災害を招き、大変危険です。小型容器の廃棄などについては、特約店・販売店もしくは各自治体にご確認ください。



災害が起きたときは

地震のときは

ご自身の安全を確保していただき、揺れがおさまるのを待ってから、ガス栓、器具栓を閉め、火がすべて消えていることを確認してください。

火災のときは

容器バルブを閉めてください。消防署員または消火にあたる人に、容器の位置を知らせて、あとの処理を頼んでください。

台風・洪水のおそれがあるときは

容器バルブを閉め、容器が倒れたり流されたりしないように、チェーンやロープなどでしっかりと固定されているか確かめてください。

※電気のブレーカーも落としてください。

※異常があった場合は至急、特約店・販売店または保安機関へ連絡してください(連絡内容は右記参照)。

※再びガスを使うときは必ず、特約店・販売店または保安機関の点検を受けてからお使いください。

容器バルブの閉め方

容器バルブは時計と同じ右に回すと閉まります。災害のときに容器バルブを閉めることは、二次災害の防止にも役立ちます。



特に雪の多い地域では

雪囲いや容器収納庫の設置

雪により容器が埋まったり、屋根からの落雪で調整器や配管、メーターなどが壊れるおそれがあります。雪囲いや容器収納庫を設置してください。また、それらのまわりは除雪してください。



排気筒(煙突)の補強

排気筒(煙突)は丈夫な支柱で補強してください。



雪おろしや除雪

雪おろしや除雪の際は、ガス設備に損傷をあたえないように十分注意してください。

もしもガスが漏れたときは

ガスのニオイに気がいたら
ガスの警報器が鳴ったら

火気は絶対使用しない



室内の火はすべて消し、タバコを吸ったりマッチをすったりしないでください。

火花が出るおそれがあるため、コンセントやスイッチに触らないでください。※換気扇は絶対に回さないでください。回っている場合は、そのままにしてください。

ガスを外に追い出す

扉や窓を開け風通しをよくし、ガスを室外へ追い出してください。ガスは下にたまるので、注意してください。ほうきなどを使い、足元の風通しをよくしましょう。器具栓やガス栓はすべて閉めてください。



特約店・販売店に連絡してください

- お名前
- ご住所
- 近所の目標、目印
- その場の状況

上記の4つを伝え、特約店・販売店の指示にしたがってください。

※連絡先は裏表紙に記載

点検を受けるまでは、絶対にガスを使わないでください!

安心して使える安全機器や
安全装置つきガス機器がおすすめです

【Siセンサーコンロ】

すべてのバーナーに安全センサー(立消え安全装置・調理油過熱防止装置・消し忘れ消火機能)を搭載したガスコンロです。



- ・立消え安全装置は、煮こぼれや吹きこぼれ、強風などで火が消えたとき、自動的にガスを止めます。
- ・調理油過熱防止装置は、センサーが鍋底の温度を感知し、約250°Cになると自動的に消火して油の発火を防ぎます。
- ・消し忘れ消火機能は、点火後一定時間が経過した時点で自動消火します。

【ヒューズガス栓】

ゴム管が外れるなどしてガスが大量に流れたとき、自動的にガスを止め、ガス漏れを防ぎます。



不完全燃焼防止装置つき

【ファンヒーター】

フィルターの目づまりなどで、新鮮な空気が不足した場合、異常を感知し自動的にガスを止めます。



【小型湯沸器】

ほこりによる熱交換器の目づまりなどがあつたとき、炎の異常を感知し、自動的にガスを止めます。



警報器

【ガス警報器】

ガス漏れを素早く感知して、警報音や音声で知らせます。



【CO(一酸化炭素)警報器】

不完全燃焼などで発生したCO(一酸化炭素)を感知して、警報音や音声で知らせます。

住宅用火災・ガス・CO警報器

住宅用に火災警報器とCO(一酸化炭素)警報器に、ガス警報器を加えたものがあります。火災、CO(一酸化炭素)、ガス漏れを感知して、警報音や音声で知らせます。